



『 向 日 葵 』



長崎県高校生介護技術コンテスト

7月17日（水）に大村市で「長崎県高校生介護技術コンテスト」が実施され、口加高校福祉科1年生17名も参加してきました。このコンテストでは、長崎県で福祉を学んでいる高校生が日頃の学習の成果を発表する機会となっており、九州大会や全国大会も開催されています。他校は全て3年生が出場しているなか、本校は1年生の生徒3名が出場し、上級生に引けを取らない介護技術を披露しました。惜しくも上位入賞とはなりませんでした。これから多くのことを学んで来年は長崎県代表を目指します。



練習の様子



本番の実技



自己PRと質疑応答



全員集合！

○出場した選手3名の感想

今回、初出場で私はプレッシャーがありました。でも、放課後や休日にも先生方はお忙しい中、私たちのために力を貸してくださったので、そのことに感謝し、今までの練習を思い出しながら本番に臨みました。他校の発表も勉強になり、自分たちの改善点もみつけたので、利用者の方を1番に考えながら今後の活動に取り組もうと思います。

藤下 琴音（深江中出身）

みんなの前で発表するのはとても緊張したし、課題が当日発表されて、その場で対応しないとイケなく、さらに緊張した。このコンテストに参加したことで、自分の中に今までなかった発想を取り入れることができたと思った。また、自分の課題も発見することができました。

多良 和美（西有家中出身）

今回はサポートとして本番に参加し、練習では利用者役などをしました。短い期間で選手3人と先生方と話し合っ練習に取り組みました。本番では当日課題もあり少し焦りましたが、落ち着いてお互いに「笑顔を」と声をかけて挑みました。舞台袖から見ていて私もとても緊張しました。他校の発表を見て学ぶことも多く、充実した1日になりました。

池田 亜依花（布津中出身）



○応援、見学として参加した生徒の感想

介護技術コンテストでは、同じ課題でも学校によって様々な介護の方法があることを学んだ。口加高校の3人はまだ3ヵ月しか学習していないのに、ステージ上で堂々と披露して声も通っていて、アピールや質疑応答もスラスラと答えていて凄かった。放課後や休日を使って取り組んでいる姿もカッコよかったです。

杉本 ののか（加津佐中出身）

コンテストに参加した3人が凄いと思いました。本番はとても緊張していたと思うけど、大きな声でハキハキとしていてアピールや質問されたことにも根拠を明確にして答えていました。正直なところ口加高校が優勝できると思ったけれど、3人が休日や放課後の時間を使って努力した成果が出ていたと思います。

渡邊 帆乃香（深江中出身）

「ふくしらぼ」始動開始！

○「ふくしらぼ」とは

本校がある南島原市を中心に、地域の方々と一緒に、福祉について「考え」「創り」「行動」をしていく研究室（Laboratory）のことであり、略して『ふくしらぼ』と呼びます。地域住民や専門職の方に講師になっていただいたり、様々なイベントや交流会を自分たちで企画・運営したり、『ふくしらぼ』を通して「南島原の歴史や文化、生活」「ボランティア活動」「マナー教育」「探究学習」などの研究を行っていきます。

7月24、25日に最初の『ふくしらぼ』を実施しましたので、活動の様子をご覧ください。

○1日目（福祉系大学訪問・長崎ウエスレヤン大学）



○1日目（県立ろう学校訪問）



○1日目（障がい者就労支援施設・大村市）



○ 2 日目（世界遺産「原城跡」で高齢者疑似体験と車いす支援）



○ 2 日目（高齢者福祉施設・南島原市）



○ 2 日目（障がい者就労支援施設・雲仙市）



長崎県立口加高等学校 福祉科 長崎県南島原市口之津町甲 3272 番地

TEL 0957-86-2180

Fax 0957-86-2307

Mail: 70190kokafukusi@news.ed.jp